

## 第3回四万十町地域公共交通会議結果（要旨）

日 時：平成21年2月25日（水）13：30～16：10

場 所：四万十町役場（3F）委員会室

出席者：別紙のとおり

---

### 1 開会あいさつ

会長（高瀬副町長）が別の会議出席のため遅れることをお詫びし、津野氏に変わり新しく委員となった北幡観光自動車代表取締役の由類江氏から自己紹介が行われた。

### 2 議 題

#### （1）第2回会議結果（要旨）とその後の取組について

企画課が、「資料1」及び「資料1-1」により前回の会議結果を受けて取り組んできたことを報告し、次に「資料1-2」によりこれからの大まかな方向性や予定を説明した。

#### 【意見】

- ・ 例えば、四万十町総合振興計画には基本構想・基本計画があってそれにぶら下がる実施計画があるが、3月までに仕上げるこの計画（基本方針）は、基本構想・基本計画にあたる部分か？  
→言われるとおりである。今年度中に基本方針を確定し、公共交通再編について具体的な行動計画を平成21年度の早い時期に作り上げたいと考えている。

#### （2）四万十町公共交通等利用実態及び意向調査の結果について

#### （3）公共交通再編基本方針（案）について

調査委託先くろしお地域研究所の吉田代表取締役が、「第3章 利用実態及び意向調査」と「資料3」により調査結果と基本方針（案）を説明した。

#### 【意見】

- ・ 利用実態及び意向調査のなかで、一般調査（高知県西南地域公共交通協議会アンケート調査）は、いつ、どういった人たちを対象に行ったものか？  
→平成20年9月下旬に、幡多郡内の全ての市町村と四万十町の全戸対象に実施した。各市町村によって取り組み方法が違っており、四万十町では区長行き文書によって発送し、公共施設や大きな量販店等に回収ボックスを一定期間備え付け住民の方に投函していただいた。回収できた数は1,680件（20%以下）となっている。  
→一般調査（高知県西南地域公共交通協議会アンケート調査）の結果は「参考程度」といった説明だったが、P34の間17の結果にこそ改善ポイントが出ているのではないか。これを見ると、接続改善（運賃含む）や運行改善（本数や行き先）を求めていることがはっきりしている。  
→このことについては同意見であるが、町が行った調査でも同じような結果が出ている（出てくることが推察される）ので、そういった意味で参考という言葉を使った。
- ・ 基本方針についても業者から説明があったが、基本方針も業者が作成するのか？それとも町が作成するのか？  
→基本的には町が作成するものと考えている。ただ、今回は委託業者から町へ調査結果が届くの

が遅れたため、調査結果や課題を町が腹に入れ基本方針を説明することが困難だった。このため、現段階で調査結果と方向性の関連性を一番理解できている委託業者に説明を任せました。

- ・ 委託業者は分析・処理をきちんとしなくてはいけない。
- ・ 行動計画はいつ頃までに仕上げるのか？  
→平成21年度の早いうちに仕上げたいと考えている。例えば、バス会社は補助金の会計年度は10月が基準だが、運行が変わったりする場合には住民への周知期間等も必要であり、協議の整い方により状況が変わってくるのではないだろうか。
- ・ 住民の意向を踏まえた、永く続けられる方針を作ってもらいたい。
- ・ 高齢者調査と通勤者調査の対象者数は？  
→資料がないので、次回報告させていただく。
- ・ 現在の町が負担している経費やバス会社への補助金を、利用者への負担補助として考えることは出来ないか。バス会社へ補助するのも、バスを使った利用者に対して補助するのも結局は同じことかもしれないが、利用者に補助する方が、意義があるのではないか。
- ・ 商店街で買い物をした方にはポイントが溜まり、バスが使えるといった仕組みを考えてもいいのではないか。
- ・ 振動病の方は病院までの距離で補助がある。申請するには証明等も必要と聞く。その申請事務などをバス会社が行うなどしてバスに乗ってもらう方法はできないか。
- ・ バス会社へ9割の補助があるのであれば、タクシー会社にも恩恵はないか？路線の枝の先までバスに取られると、タクシー事業者厳しい。
- ・ ようは接続の改善だと思う。バスからバス、バスからタクシーなど接続への補助等考えることが出来ないか。また、JRの活用方法も考えなくてはいけない。  
→接続の補助については少し意識しながら、基本方針(案)のなかで「乗り継ぎを前提とし、乗り換えても初乗り運賃がダブルカウントされない制度の検討」と記載している。
- ・ 病院バスが運行しなくても目的地(病院等)まで行けるように、路線等の大幅な改善、ダイヤや料金の改善が必要ではないだろうか。
- ・ タクシー会社は、例えば車の乗り降りが大変な高齢者の利用もあり、そういった時にはおんぶして車まで運ぶなど福祉の部分を担当している。また、介護タクシーの導入も考えたが、費用の面等から断念した。
- ・ 下本さんの企業努力が必要だという建設的な意見や、藤塚先生の料金や体系的な検討の意見はもったもな事だと思う。ただ、懸念しているのは、町民2万人の町で等身大の規模でやっていくには限界があり、最終的にはこの町がどのような方向に向かっているかと町の方向性が重要であり、町を目指す規模を作り上げなくてはいけないのではないか、町が観光振興を目指すのか、企業誘致を進めるのか、総合振興計画に絡めながら公共交通も考えなくてはいけないと思う。今の人口2万人で考えるのか、活性化や観光などを考えるとダイナミックに考える必要がある。  
→国の文化的景観の指定を受け、流域では観光への追い風があるが、この計画のなかで考えているのは、町内に住んでいる生活者の足の確保を第一に考えていくことである。
- ・ 交通需要を考えて計画することが必要で、町民のことを考えるのが内需、観光は外需になってくる。交通事業者にとっては内需目的だけの運営は難しく、外需を得るために町全体のマスタープラン等の方向性を見ながら運営を考えなくてはいけない。  
→そこをふまえると、とても難しいものになる。内需に対応した交通機関になる必要があるので

はないか。

- ある集落の奥の方に暮らしている高齢者夫婦が、月6～7万円の年金生活で、タクシーで病院へ行くことも出来ない状態で、そこへ病院バスを対応させたことがある。実際はこのような事例がたくさんある。今の路線バスでは、公共交通として成り立っていない。視点をどこへ持っていくのか考えなくてはいけないのではないか。
- 病院バスも、金銭的や体制的に楽な状態ではない。集客目的で走らせているように言われるが、本音を言うと病院バスは今すぐにでもやめたい。出来ればバスに使う費用は患者への診療の方に使いたい。そういったなか、現在、路線や回数の縮小を考えている。また、意向調査の結果については、サンプル数などが解らないため不満である。  
→今回は、アンケートの分析もできていない状態で、西南公共交通アンケート結果から推測した基本方針であり、次回はもっと踏み込んで提案を行う。
- うちの病院も決して楽ではない。先ほど窪川病院が言われたような患者さんがたくさんいる。
- 病院バスアンケートの結果では、バス料金の負担について聞いているが、実際の負担は無理だと思う。
- 今回の取り組みについて、町の取り組みが見えない。  
→これまでも議論してきたとおり、昔は、路線バスも人がたくさん乗っていた。しかし、人が減り赤字代替バスへと移行した。今は、停留所までの便を考えなくてはいけない状況だ。今のバス路線では無理な状況となっている。利用者本位で考えていきながら、現行ではないものを考えなければならない。
- 生活の中では窪川で買物し、窪川が生活の中心になっている。バスのうまい運行を考えれば、集客できるのではないか。
- 自分は車に乗れないし免許も持っていない。移動する時は、家人の車や隣人の車に便乗したり、タクシーを利用している。私は、公共交通を利用しなければいけない人の立場で考えてもらいたいと考えていたが、この会に参加してそれぞれが本当に大変だということが解った。しかし、今でも何とか便利のいいようにならないかと考える。今日、予土線でこちらへ来たが、駅には停留所の地図はあったが時刻表はなかった。どこで、何時にバスが利用できるかなどが判る、知らせるサービスも必要ではないだろうか。
- 以前、病院バスは患者の取り合いだと失礼なことを言ってその後に取り消したわけだが、病院の方の話から、福祉が担うべき部分もカバーしていることが解った。社会福祉協議会の介護事業は黒字であり収益を活かした外出支援を行ないたいとの報告もあったが、行政が目を向けるべきところだと思う。  
→窪川地区では足の確保ということで福祉タクシー券を配布するなど介護保険サービスを行っており、これらの拡充ということで検討していくことになると思う。
- バスが入れないところにタクシーが入って行って、それに町が補助をするようなのがいいのではないか。
- 以前の会で触れていた、貨客混載については何か調査を行ったか？  
→通勤者に対して必要と思うかの問い掛けは行った。  
また、2つのJAに聞き取りを行った。JA四十については、現在、集荷は行っておらず、今後の取り組みの可能性についても低いということだった。またJA高知はたでは、モデル事業として集荷事業を行っているが、既存の1/2の町補助がなければ実施は難しいということだ

し、一つの農家が出荷する量を考えると実施は難しいように感じた。

→ J A以外の業種で可能性を探る必要あるのではないだろうか。

- ・ 以前、集荷については、大地区道で北幡観光が試験的にやったのではなかったか？  
→バスのシートを除けたりなかなか大変だった。臭いの問題も心配される場所だった。

#### 【今後について】

- ・ 3月下旬に第4回目の会議を開催する。
- ・ それまでに、早急にアンケート調査の詳しい分析や課題の整理を行い、課題や今回の議論を活かした基本方針案を示し、次回の会議で確定したいと考えている。

## 第3回四万十町地域公共交通会議 出席者名簿

## ■ 委員

| 組 織 名              | 氏 名          | 出欠確認            | 備 考  |       |
|--------------------|--------------|-----------------|------|-------|
| 道路運送法9条で定める必要のある委員 | 四万十町         | 副町長 高瀬 満伸       | ○    |       |
|                    | 高知運輸支局       | 首席運輸企画専門官 一宮 軌善 | ×    |       |
|                    | (有)高南観光自動車   | 代表取締役 生田 則明     | ○    |       |
|                    | (有)北幡観光自動車   | 代表取締役 由類江 秋穂    | ○    | 補佐：山本 |
|                    | (有)窪川ハイヤー    | 山崎 健一           | ×    |       |
|                    | 新生タクシー       | 佐竹 憲雄           | ○    |       |
|                    | 丸三ハイヤー（本社）   | 三浦 ひろみ          | ○    |       |
|                    | 十和ハイヤー（十川）   | 芝 恒雄            | ○    |       |
|                    | 住民または旅客（窪川）  | 富岡地区 榎本 利一      | ×    |       |
|                    | 住民または旅客（大正）  | 下津井地区 下本 治男     | ○    |       |
|                    | 住民または旅客（十和）  | 大井川地区 谷崎 直子     | ○    |       |
| くぼかわ病院             | 事務長補佐 芝 司    | ○               |      |       |
| 大西病院               | 事務部長 藤原 満子   | ○               |      |       |
| 田辺医院               | 医院長 田辺 博之    | ×               |      |       |
| 高橋内科・呼吸器科・消化器科     | 高橋 美華        | ○               |      |       |
| 高知大学               | 准教授 藤塚 吉浩    | ○               |      |       |
| しまんと町社会福祉協議会       | 副会長 八木 雅昭    | ×               |      |       |
| 四万十農業協同組合          | 営農推進課長 国廣 純一 | ×               |      |       |
| 高知はた農業協同組合         | 支所長代理 藤本 憲一  | ×               |      |       |
| 合 計                |              | 12名             | 補佐1名 |       |

## ■ その他

- ・ 高知県地域支援企画員（公文、夕部）
- ・ 四万十町企画課（武内、敷地、富田、細川）
- ・ くろしお地域研究所（吉田） ※委託業者

出席者合計：20名